

# それでも先生か

2018年6月22日/毎日新聞

「精神科医に拳銃持たせてくれ」

全国の精神科病院でつくる「日本精神科病院協会」の山崎学会長が、協会の機関誌に「患者への対応のため」精神科医に拳銃を持たせてくれ」という部下の医師の発言を引用して載せていたことが分かった。21日、患者団体などでつくる「精神科医療の身体拘束を考える会」が問題

## 病院団体会長 機関誌で引用

視する集会を国内で開催。「日本の精神科医療のトップが患者を危険な存在と差別し、許されない」と批判が出ている。山崎氏は機関誌の「協会雑誌」5月号の巻頭言で、自身が理事長を務める群馬県高崎市病院医師が朝礼で話した内容を「興味深かった」と紹介した。

この医師は、米国の病院では武装した警備員が精神疾患の患者を拘束したり、拳銃を発砲したりしており「欧米の患者はテロ実行犯と同等に扱われるようになってきている」と指摘。その上で「僕の意見は『精神科医にも拳銃を持たせてくれ』ということです」と主張している。

患者団体は集会で、協会に対し質問状を出したと明らかにした。協会からは電子メールで「不快な思いをされた方がいたのであれば、今後は気を付けた」と回答があった。一方で「対策を検討してほしい」という願いを言いたかった。医療提供者もかけがえのない人たちだとしている。

2018年6月22日/日本経済新聞

## 「精神科医に拳銃を」

協会誌の巻頭言に掲載

患者の家族らが批判

精神科を持つ医療機関などでつくる「日本精神科病院協会」(東京・港)の協会誌の巻頭言に「精神科医にも拳銃を持たせてくれ」と掲載されていたことが21日、分かった。専門家や患者の家族から批判の声が上がっている。巻頭言は協会の山崎学会長が執筆。自身が院長を務める病院の医師の発言を引用する形で、米国の精神科病院における患

者の暴力、現場の担当者が銃や手錠を使って対応している現状を紹介。「僕の意見は『精神科医にも拳銃を持たせてくれ』ということですが、院長先生、ご賛同いただけますか」と書かれている。山崎学会長本人の考えは記されていないが、末尾で患者の暴力問題に対応する専門資格を創設する必要性を訴えている。

「精神科医療の身体拘束を考える会」代表を務める杏林大の長谷川利夫教授は「限度を超えた表現で到底容認できない」と批判している。日本精神科病院協会は日本経済新聞の取材に「アメリカの実情を踏まえた例えで、決して患者への暴力を容認するということではない。今後は適切な表現をするように努めたい」としている。

# 「暴力の容認ではない」

## 「精神科医に銃」問題 協会が見解

出。内容に不安の声が寄せられているとして「山崎会長は『拳銃を持たせてくれ』という意見に賛同するのかわかなど尋ねた。同会代表を務める長谷川利夫杏林大教授は「協会と意見交換をしたい」と話している。【山田麻未】

全国の精神科病院でつくる日本精神科病院協会の山崎学会長が「精神科医にも拳銃を持たせてくれ」という部下の発言を協会の機関誌に載せた問題で、同協会は22日、取材に対して「決して患者への暴力を容認するということではない。今後は適切な表現をするように努めたい」とコメントした。

問題となったのは、山崎会長が院長を務める病院の医師の発言を引用するかたちで執筆した機関誌の巻頭言。米国の病院では警備員が拳銃を発砲したりしているとの事例を挙げ

2018年6月23日/毎日新聞

2018年6月23日/朝日新聞

# 「精神科医も拳銃持たせて」

## 病院の協会長、機関誌に引用

全国の精神科病院でつくる「日本精神科病院協会」の山崎学会長が、協会の機関誌に寄せた文章で「精神科医にも拳銃を持たせてくれ」という部下の医師の意見を引用していたことが分かった。意見は医療現場での患者の暴力について言及したもので、患者や支援者からは「患者を危険な存在と決めつけている」などと

批判の声が上がっている。患者を支援する「精神科医療の身体拘束を考える会」代表の長谷川利夫・杏林大教授らは22日、東京都港区の協会事務局を訪ね、公開での意見交換会の実施などを求めた。文章は協会機関誌の「協会雑誌」5月号の巻頭言。山崎会長は、自身が理事長を務める群馬県内の病院の

医師が朝礼で話した内容を「興味深かった」として引用した。医師は、精神疾患の患者への行動制限を減らす試みが世界の医療現場で進む一方、米国では患者の暴力に対応するため武装した警備員が病院におり、暴れる患者を拘束したり拳銃を発砲したりした事例もあると説明。「僕の意見は『精神科医にも拳銃を持たせてくれ』ということですよ」と述べたという。

「考える会」や患者団体は21日、都内で抗議集会を開催。長谷川教授は「このような意見を発信することが責任ある言論とは思えない」と訴えた。機関誌の編集責任者の松原六郎常務理事は、朝日新聞の取材に「何らかの対策を検討してほしいと言いたかったのであって、決して患者への暴力を容認するということではない。不快な思いをした方がいたのであれば、今後は引用であって十分に気をつける」と回答。事務局は「山崎会長も同様の考えだ」としている。(佐藤啓介)